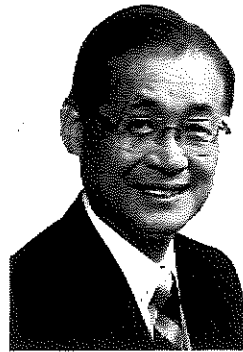


〈惜別の辞〉

木村 仁 先生



自民党。参議院議員二期（熊本
県選挙区・一九九八年～二〇一
〇年）、総務委員長等を歴任。
二〇一三年十一月十五日御逝去。

穏やかな笑顔、忘れません

当協会会員・弁護士 佐々木 知子

平成十年、当時の拘束名簿式比例の下、私は十五年勤めた
検事から自民党参院議員に転身した。早いものであれから四
半世紀が経つが、同期二十二名中、私が最年少（四十三歳）
で唯一の女性である。官僚と地方議員出身者が主体で、最年
長六十七歳を会長とする平成十年会は、以後勉強会に飲み会
にと、よく集まったものである。

木村仁先生は議場で隣席になったとき、小咄や駄洒落を連
発して、よく笑わせてくれた。東大の落研出身とのこと。自
治省出身だが、とにかく偉ぶらず、いつも笑顔の穏やかな

方である。国対委員会及び議員総会ではいつも顔を合わせる
が、いつだったかヨイヨイ・マの演奏の案内があったとき、
またダジャレが始まったので、「え、知らないんですか!?
ヨイヨイ・マって世界的なチェリストですよ!」と私が呆れ
ると、珍しくむっとされたようで、「えっ、みんなも知って
るの?」。すると周りが一様に肯いたので、ずいぶん傷つけれ
た。この話はその後何度か口にされた。でもそれをきつか
けにクラシックも勉強されるようになったというのは、さす
がである。

しっかり者の奥様の話もよくされていて、「家内が新しい靴
が欲しいというので、佐々木先生でも十足しか持ってないよ
と言ってやった」と言うので、「まさかあ。百足はあります
よ」と言ったら、きよとんとされていた（イメルダの三千足
がニュースになったとき、私を思い浮かべたという知人が何
人もいたくらいだ（笑））。

私は一期で辞めて弁護士になったが、木村先生は次の期も
された。数年前、熊本を引き払って娘のいる町田に移るとの
連絡があり、以後もショートメールや電話で連絡をしつつ、
再会できるのを楽しみにしていたが、難しい病気だとのこと
で叶わず、令和五年晩秋、訃報に接した。十年程前の平成十
年会の集まりの際、私の向かいでしみじみと、「あなたが我々
の求心力だから、どうぞ体を大事にされて下さい」と言われ
たのを思い出す。私のほうが二十歳若いので杞憂だが、きつ
と木村先生はうんと長生きされるよねと思っていた。

もうお会いできないのが残念で仕方ないけれど、心からご
冥福をお祈りします。